

---

# 恋愛夜空

愛理

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋愛夜空

### 【Nコード】

N0682Z

### 【作者名】

愛理

### 【あらすじ】

夜空の星を眺めることが好きな大学生、近藤玲奈とその幼馴染、高原亮。

玲奈は、久しぶりに会う亮を図々しい奴だと思う。

未だに付き合った彼氏は0人の玲奈と、付き合った彼女が2人の亮。玲奈と亮、2人の恋愛話

## 夜空には星

1

とあるマンションのベランダ。

夜空の星を見つめる女性がいた。彼女の名前は近藤玲奈。18歳の大学生である。そんな玲奈の趣味はこうやって夜、天気がいい日に星を見ること。都会に住んでいるので星はそんなに見えないが、この静寂な夜にコーヒーを手に夜空を眺めるのがいいのだと玲奈は言う。

だが、今日は違った。普通、玲奈は夜中1時頃にベランダに出て星を眺める。そこまではいつもと同じだった。夜1時頃なので、人もあまりいない。ましてや玲奈を外から呼ぶ人もいない。だが今日はいった。玲奈を外から呼ぶ人を。

「あのー!!その君!!おーい!!」

その声に玲奈は気づく。さすがにこんな夜中に大声で叫ばれたら近所迷惑なんてものじゃない。玲奈はすぐに下まで行った。普通ならこんなの無視する玲奈だったが、玲奈を呼んだ人の顔はどこかで見たことがあるような気がしたからだ。

「あ、やつぱり。」

「あの、どちら様で?」

「あ、覚えてないか。俺だよ、高原亮。」

「亮?高原?」

「そう。久しぶりにこの辺来たから、散歩してた。」

この人は高原亮。玲奈の幼馴染。玲奈が住んでいる隣の町に住んでいる。

「へえ、で私を見つけたからこんな夜中に大声で呼んだと。」

「久しぶりじゃん?会つの。で嬉しくって!」

「そう。私は別に嬉しくないけど。」

「まあ、せつかく来たんだし家入れてよ。」

亮はそのまま玲奈の部屋に強引に入って行った。

「ちよつと、ほんとにやめて。」

「いいじゃん。俺、今日家に帰る気無いから。」

「なにそれ、ここに泊まるってこと？」

「そうだけど、なにか？」

「ほんと図々しい奴。」

「ねえ、お願い。泊めてよ。」

「わかったよ、わかった、いいよ。」

玲奈は亮が後ろで話すのを空返事をしながら再びベランダで星を眺め始めた。今日は、比較的星がたくさん出ている。

「好きだよね、玲奈は。」

「うん。こうやって星眺めると、心が落ち着くといつかなんと言  
うか……。」

「俺も。」

「そうなの？昔は私のこと馬鹿にしてたくせに。」

「そうだったけ？まあ、よく玲奈の家行って一緒に星見てたから見  
ようになった。」

玲奈は中学生の頃、亮と毎週のようにこんな風に夜、星を眺めてい  
た。

玲奈はまだ付き合った人は、1人もいないのに対し、亮は過去に2人程付き合っている。

亮は、玲奈の家にくるたびその彼女の話を嫌みの様に語ってきた。

「玲奈は、そうやっていつつも空ばっかみてるから彼氏なんてできないんだよ」

「なんでよ。空とか星を見るからできないんじゃないかって、興味無いの！男子に」

「逆になんで？」

「知らないよ。そんなの」

「ふーん。ね、玲奈。明日大学あるの？」

「あるよ。」

「じゃ、俺は家で玲奈帰ってくるの待っておくから。」

「まだここにいてるつもりなの！？」

「うん。」

「もー、寝る。」

「おやすみ」

朝、6時に起きる玲奈は、亮の朝ごはんも作って7時に家を出た。でも、玲奈は男子に興味が無いわけじゃない。ちゃんと好きな人はいる。

それは、大学の同じクラスの「西野斗真」。

学年1の人気者。

「よー！！玲奈。」

「と、斗真！！」

「なんで、ビツクリするの？」

「いや、朝からそんなハイテンション……」

「いつものことだろ！？そんなことより、玲奈あ。」

「何よ。」

「c組の佐藤廉って知ってる？」

「あ、あのイケメンで性格がいいから結構女子から人気な人でしょう？」

「うん。廉が、玲奈と放課後話があるって。屋上に集合!!」

「佐藤君が？まあ、分かった。ありがとね!!」

佐藤廉。彼は、何度も女子から告白されているが、一度もokしたことがない。

そんな彼が私に何の用？

私は放課後、屋上に行ってみることにした。

「よう近藤。」

「佐藤君、話って何？」

「俺、近藤のことが好きだ。もし良かったら付き合ってくれないか？」

「あのさ、突然すぎて頭がおかしくなっちゃってる。」

「ごめん。」

「なんで謝るの？」

「いや、なんでもねえ。」

「私、佐藤君のこと好きだよ？でも、友達としてだから。佐藤君とは、これからも友達でいたい。」

「だよな。」

「ごめんね。」

「おう。」

そう言って、彼は帰って行った。

くく

「もしもしー玲奈？」

「なによ、亮。」

「帰りが遅いから何かあったのかと思って。」

「いちいち電話して来るな！亮はあたしの彼氏かつ！！」

「うゝん。幼馴染！！」

「ったく。」

ブチッ

それから玲奈は家に戻った

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0682z/>

---

恋愛夜空

2012年1月14日17時56分発行